



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年5月22日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1-1」

情報活用能力の育成に資する学習活動の例

- ◆ 情報活用能力を構成する要素を、「①情報技術の活用」「②情報技術の適切な取扱」「③情報技術の特性の理解」とする。
- ◆ 小学校段階では、体験的な活動を重視し、「①活用」を中核としながら「②適切な取扱」「③特性の理解」と相まって培う。中学校段階以降は、各要素の内容を深めつつ、より抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」一層重視する。

	小学校		中学校
	低学年	中・高学年	
① 活用	●写真や動画を撮影する	●インターネット等で情報収集する。 ●表やグラフを活用し整理・分析する。 ●イラストを見やすく工夫して表現する。 ※ 情報技術の基本的な操作及び情報技術を活用し、情報の収集、整理・比較、発信・伝達等する活動	●アンケート結果やセンサで得たデータを集計・分析する。 ●メディアごとの特性や、どのような情報が伝わりやすいのかを考えながらレイアウトなどを決める。
② 適切な取扱	●ルールを守って大切に使う	●メディアによって、得られる情報や印象が異なることを知る。 ●インターネットの危険性や、情報セキュリティの基本を知る。	●情報がどのように加工され伝わり影響を与えるのか、メディアを比較して理解する。 ●多様なセキュリティ対策・対応を学ぶ。 ●自他の権利や法を理解し、適切に情報を扱う。
③ 特性の理解	(活用を通して体験的に学ぶ)	●クラウドを用いて共同編集する仕組みを知る。 ●プログラミングを体験したり、生成AIの出力から特性を知る。	●情報処理の仕組みやコンピュータの構成、生成AI等の基本的な仕組みを理解する。 ●身近な課題を解決するプログラムを制作する。

教育の原則

実業家 渋沢栄一

すべて教育はその原則として、智慧（ちえ）の進歩をはかると同時にその人格の養成を勉むべきである。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 智慧の進歩と人格の養成、教育の両輪です。